

0922
21
23

橫濱開港見聞誌

中

0

0922
21
3



是より五編の画圖并其設續卷より凡ハ魚獵山野に出得又ハ極北海
 の奥に至りてハ氷海夜國の渡海して氷山の羊海中の海馬を得る又々
 南天竺是は亦も印度國あり大廣野多々此處を越るの旅ハ駱駝を以て
 荷物を運送するの圖ハ吾朝横濱に有る夏少無るれども吾國の異
 州より渡来る銅版石板の見る物ゆへ其文ハ又新みきく處と以てハ細微の
 知らざる異州の文学の達する大先生も是は依て知る卷中普く
 書入ると共是ハ横濱に見ると又ハ老人の漸く聞きて其俗書物にて功
 滿我滿の作意と用む元未無智の書処るとも渡来る物ハ普く集め此
 卷中載んと欲せども次第ハ一大都の湊とあり舶来の物産も奇々妙々の
 細く微妙の織物も珍敷美鳥も面白き畜類も段々と重なる
 まづ心を目する筆のつらなる書なり

橋本玉蘭老夫



横浜国立大学附属図書館



06582988

あまの
墨利
加州の魚
を
洋を
獵る
釣の
圖



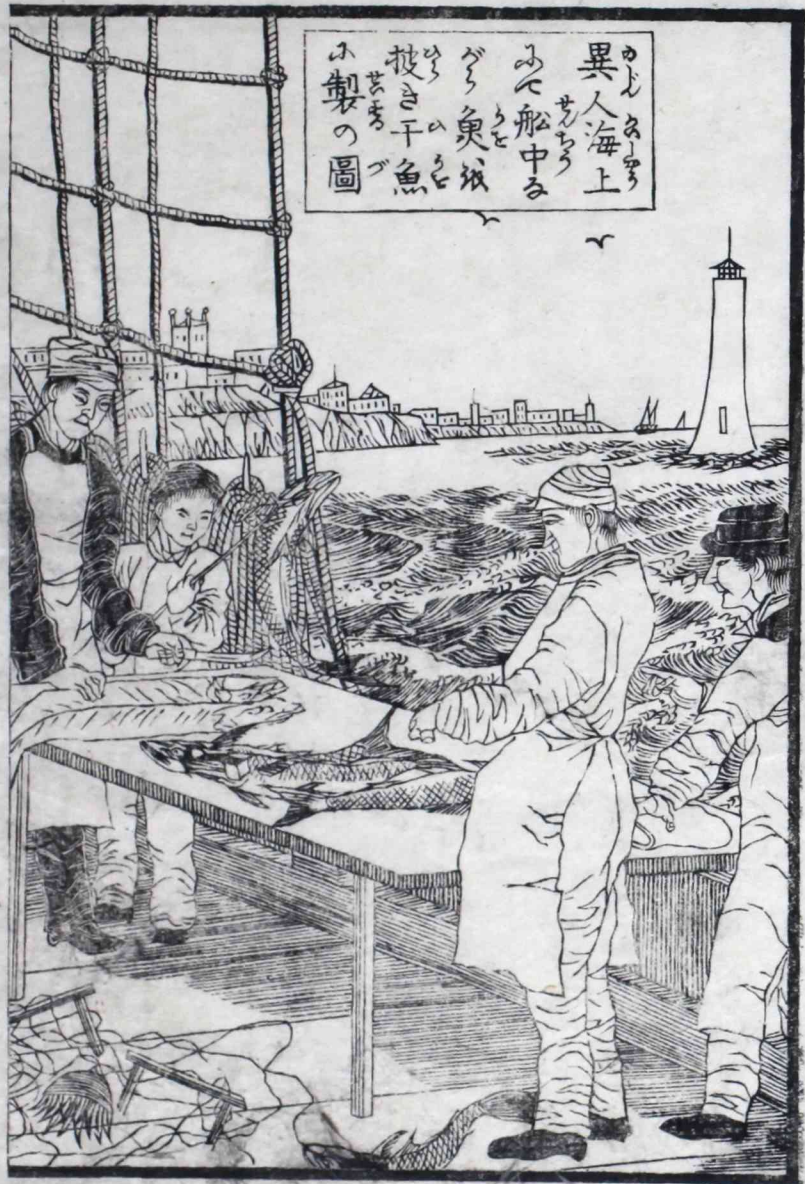
横濱五



横濱三



横濱五



異人海上
 みる船中
 ぐり魚城
 投き干魚
 小製の圖

横濱五



横濱

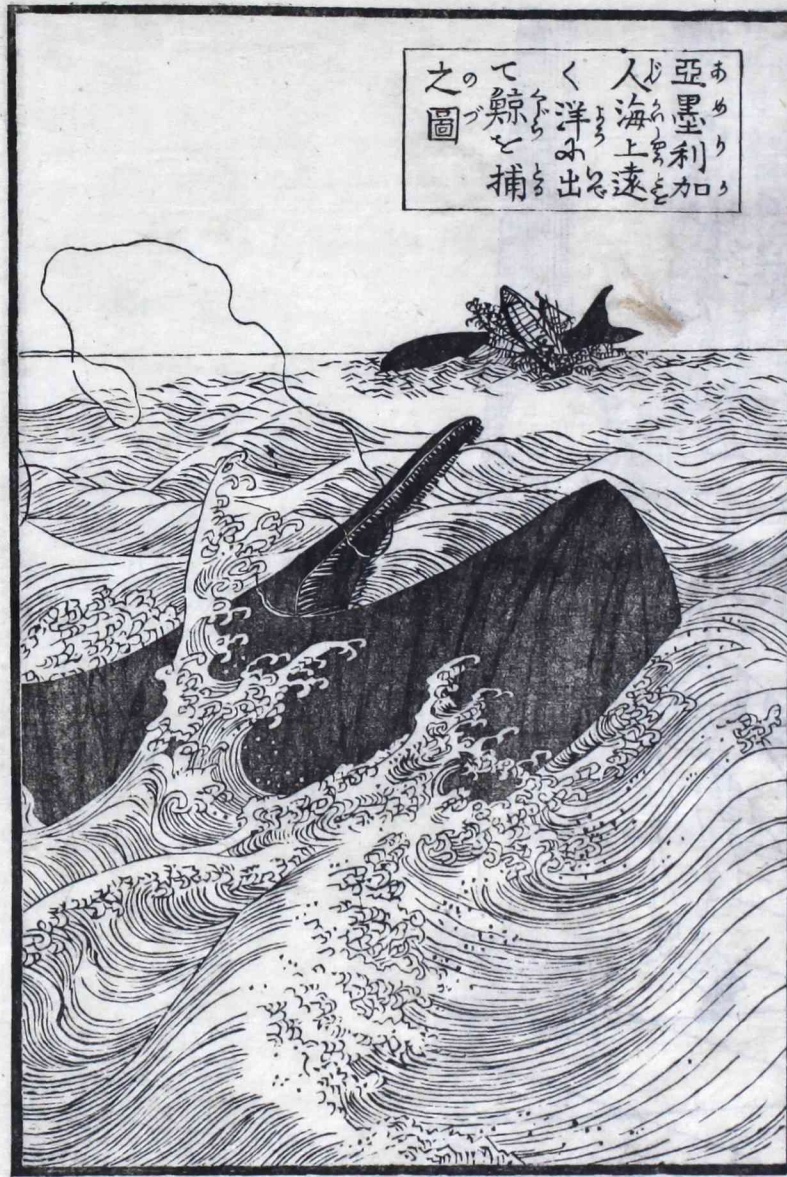


亞墨利加の魚獵場
 より遠く山を以て運送
 里の商馬
 の圖

横濱



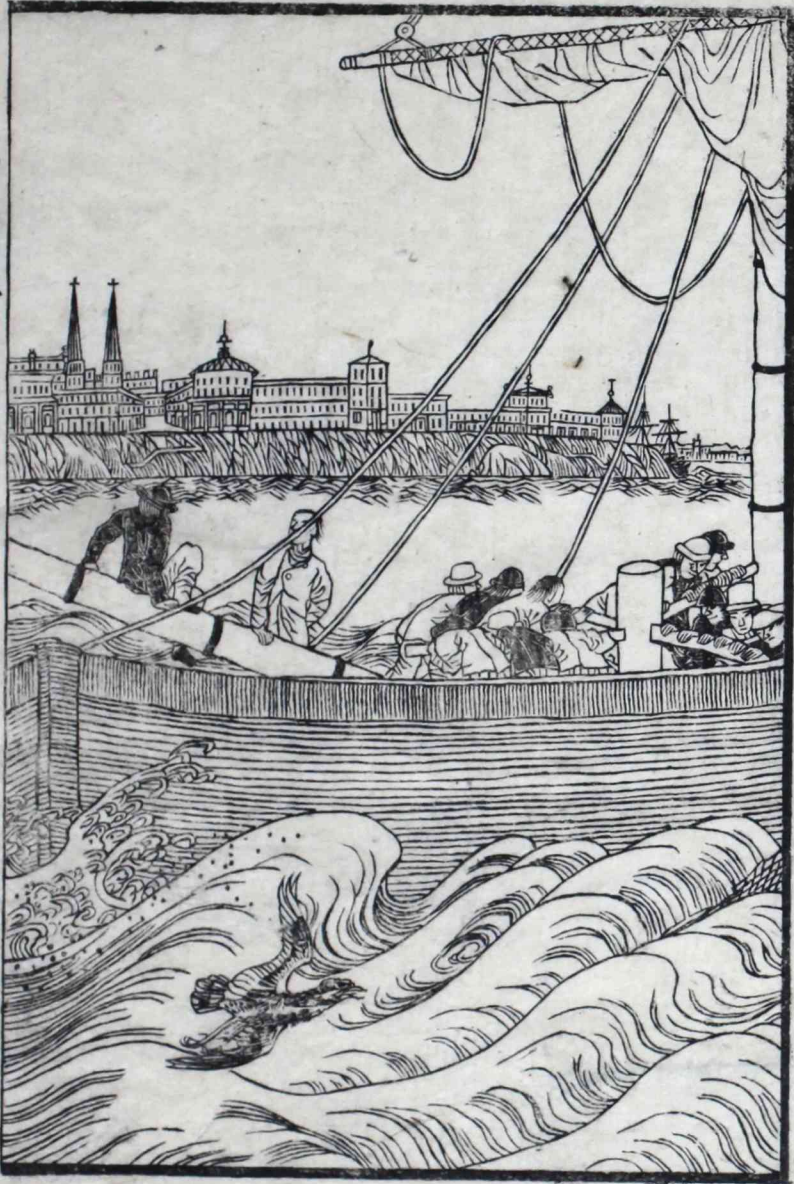
五
捕鯨船



あり
墨利
カリ
の
人
海
上
遠
く
洋
み
出
て
鯨
と
捕
之
の
圖

五
捕鯨船

五



此國ハ阿蘭陀
の銅板繪を
寫し其本國
獵師船の乗
て洋に出く
網を引有
様多



横濱五

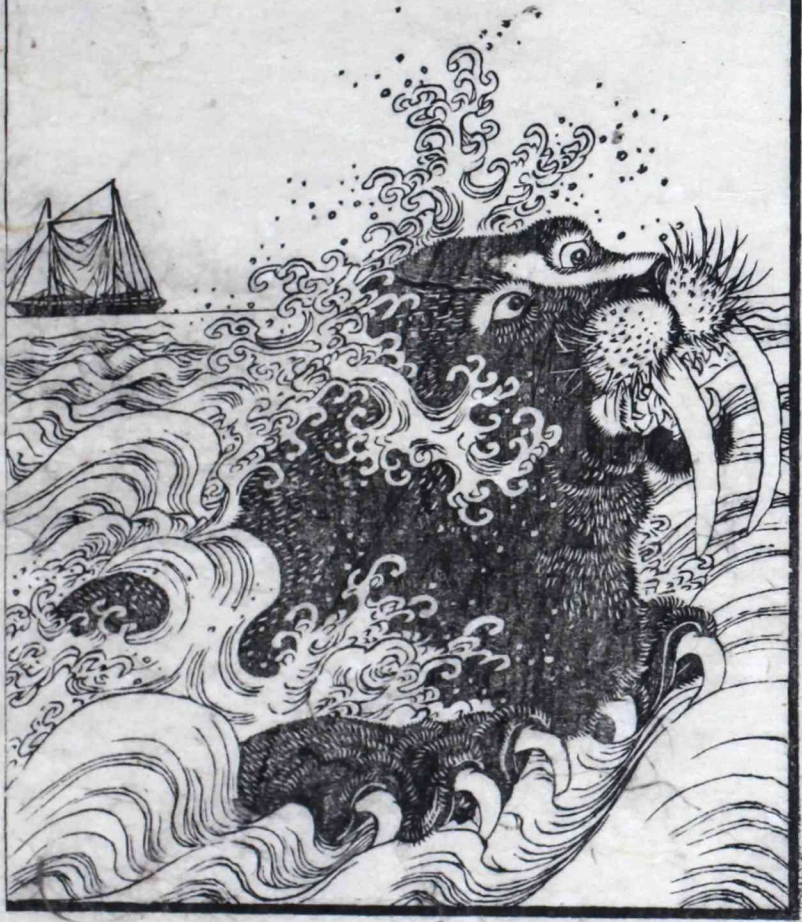
七

同横濱みく
 見る処王板油
 繪の写あり
 大虎出て大山
 又ハ廣野小太
 る山羊と齒殺
 喰ふの図



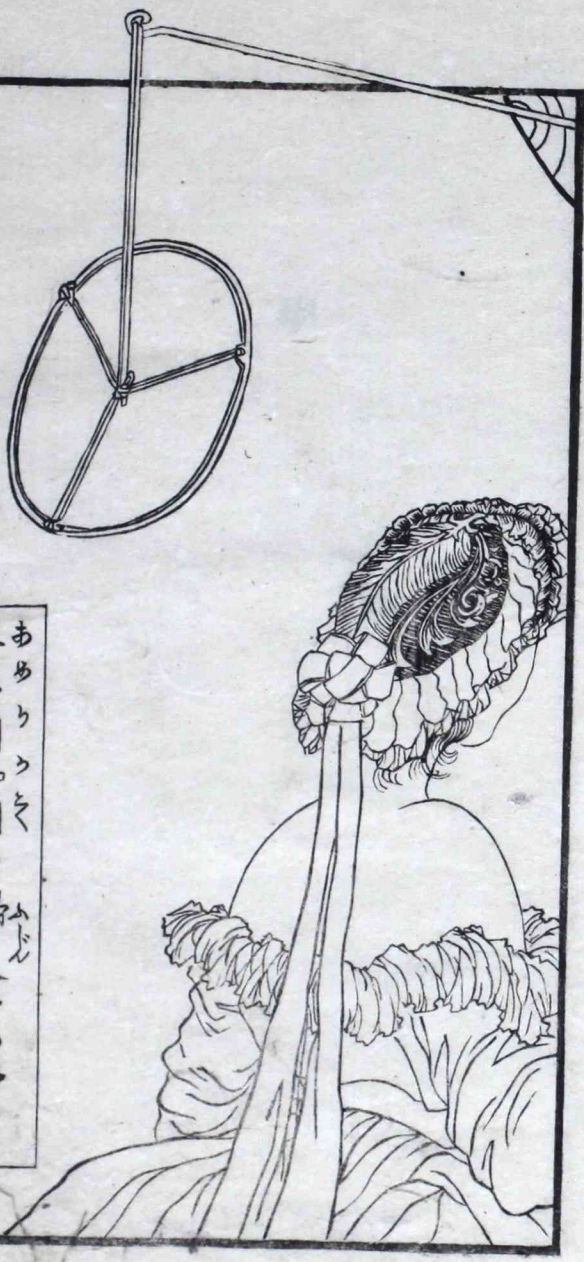
黄實五

北極の海
 中ふ生る
 海馬のま
 ぐみり氷
 海雪山夜
 国の図
 まり



横濱少く
 西洋諸國
 の婦人集
 る二豆を
 を以て是を
 みるまの
 圖あり

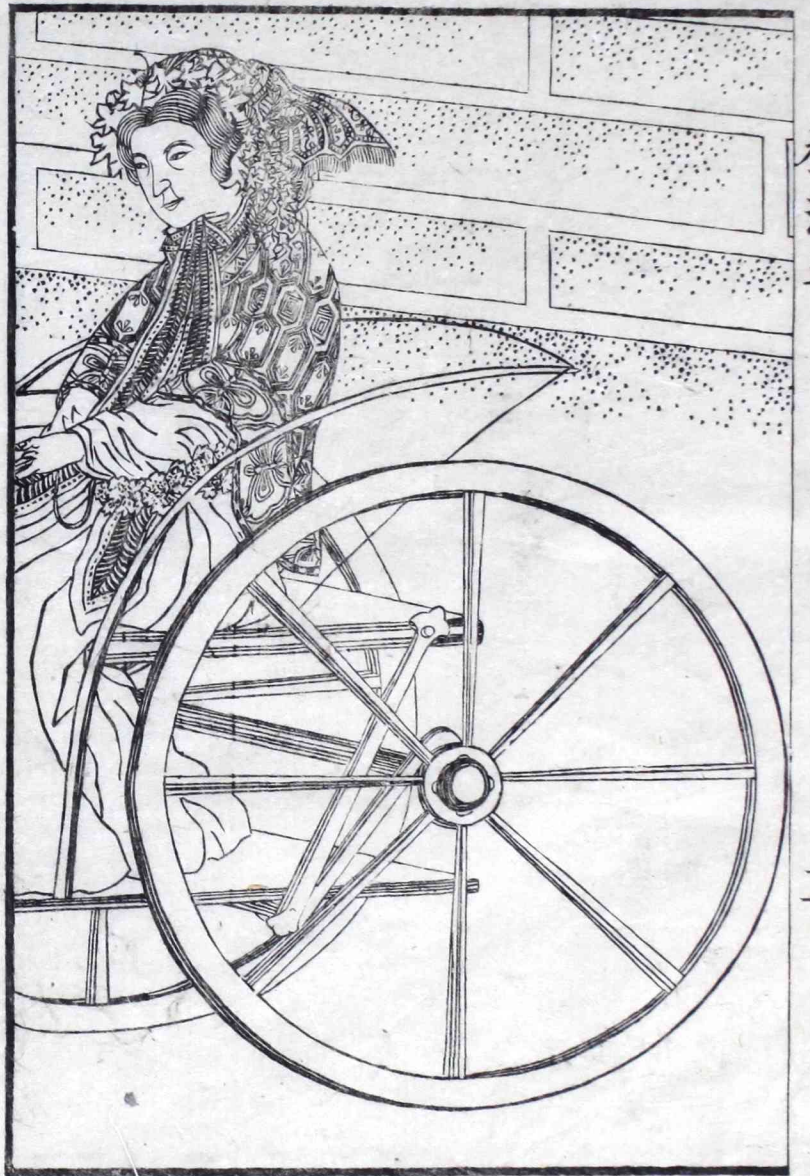




あめりか
 亞墨利加國の婦人けのり
 せきぞう
 せきぞう作ふ二面鏡とりの
 合せ見る躰なり



此車ハ自見
の物みて前
は車とゆふ
せば自然と
て大車ゆふ
出い走り
の図



西洋諸国の内
先アモヤと云
所有其地一年
の間冬の時々
主用の如く暑き
中ふ大獅子
生る是を討図





掃瀨丸

十三



印度國
人駱駝
乘之廣
野の歩
行之圖



黄道五

六



梅五

五

亞墨利加
の木の實草
の實を賣の圖



初ふり処ハ西洋諸国共ハ亞墨利加其外諸島ニ魚を捕ふとのさま
吾日本諸方めて魚を捕有るると同一竿釣めて海上ふらふおはバ又洋
少く網を巻上るひあ其捕る魚を籠ひつら馬といひみの長き小
あるのひつひ小娘など賣あつとらふ又亞墨利加の鯨を捕ふ其肉
を喰ふふあつ油を煮あつたのこまう海上ふ此魚を見らやひは
船ふ其用意をその人乗出と其間下らうを処よりさうて船を止め小舟
を下し鯨の近くふのつひ網を付方りのを打込引セ大船よのうあま
且大船の上より大づまののめ鯨を大船の上なるをまを引あがめて仕
るの油のめ油をまがり其肉ハ海へあがまき地方ふのうら此海上めて
鯨を捕へんとてあひひふら船の下より大鯨あふは出背とあて此
小舟と高くあがひは尾とあつてそれ小舟ハ鯨の脊よりあつて落さる異
人の舟をこみさう付たるもみて大浪打さる水けむりとする中へつらうる

七まきま外に乗まる小舟走りよる是を助け又ハ其のふらぐらとる又
 外みゆら小舟を是を救ひつゝ多て鯨を大船みゆらつゝとる
 其ま銅板繪みつり方と書きま彼國の銅板又ハ當時流行の石
 版みまきみら繪ハ見る工版そのま写真鏡みまらつゝとるは
 其時の有様みらつゝとる又阿蘭陀本國の銅版みまきまら魚獵の
 図を写す海上一二船を双大網をもちて水中下上左右方の船み
 てあちち張巻て此大網を引ま魚を捕ま船中婦人の小児とらる
 あま其かまらみ二人も見ま此國ゆい女人の獵船み乘て洋あま
 へ出ると見ゆ又横濱み見ま如の玉板油繪を見ま二面あ一品大廣
 野み大虎あま出て山羊の大き追うつあつて羊勢つとてまらち
 つまね倒まらと見ゆ有ま多まその腹の真中みら付目とらる
 て是を喰ふの図を見覺へ又横濱み虎を見ま其まらつゝとる

あり其まら巻中み画ま外一面ハ大虎山の上下首を長く上の
 方へあが左右の前足をひろげ後足を蹴上げ一ツまんみらつゝ
 異人三人むり是を見てま逃出まその両方の樹立の中み鉄
 砲をもちかると居て其間程と来る時一度みらちまらてまは
 仕止んとまの図あり是ハ其圖を畧しと出ま又山中みら豹を
 追まらみ大なる谷川あり是みららまらみ豹ハ一ツまん此谷川を
 飛鳥のぞくまら後ま一人の異人鉄砲を向てわらみ圖まら先
 達て横濱渡来の豹江戸諸人見るとまら其圖を畧まらみ又
 一種の銅版海馬の図を見ら横濱み此まらつゝとる北の方極奥み
 至ると降つり雪ハ氷うてつら山のまら海面氷うて数十里程
 も陸とる阿蘭陀大船此處よりうて氷を打をく一氷面ハ一筋
 の川を作り船をまら乗入て其ま陸みら此所の人常み穴み

入て居るは一年の内一度日光此氷をさうてやうやくあると
あり其時此海中に海馬といふものあり其まゝ前歯二本其長き
ま見よまみ至る此歯を得んと異人まぐみうをさしてつた止んと
ままも氷中其景のうつとあり見ゆ共得るは火いと云又繪
有処ハバテラの小舟氷さける時分と見へ海面をのりまゝ小舟の先へ
小山の出来たるごとくかの前歯とむね出しゆと出ると見て異人先ゆの
さうハ鼻の先を合むるや海馬の目の光りふびつらう有るまじらふ
をまを見てのりさう出まるとも其又水中みちう入ると早くて是を
得るとはじとらふ又横濱ゆく婦人の集りて方四五寸位の箱のうへ
あんちうの由との如きものあり真中み鉄をりの棒をつた通し繪
図み出し方如き手みぬつて是をさうとまうて豆を挽きまは紙
茶ふる湯みちちう用ゆるると横濱の異人の娘自分名をゆ

みせけのひみ姿見み向ひ其鏡の上よりちをちちうのさうつたの
うやを其先丸鏡の小形ありのを糸を圓のまうつ下其中みうつ
はしりや大鏡みうつと前後一眼みまうひとまうのまは車てめつら
まき合鏡まじり此図をまはり次の圓ハ自輪車ありとまは乗て細
組糸まじり前の輪みまはり腰のうげんみ車其ま向よりみま
さうまあくと糸をまはりまうの又ゆりま前前の車をげくめは
自然と大車めまうと走ると最も早くて小犬の付漆来りて
この車とまのふりあふ車の方少く早く車小ま作りみりて
大軒一人乗あり手まはりまう奇麗な車あり多くハ女性乃
乗べきものと見ゆ又一種の銅板を見るは獅子とらみと見へるふ
まが一人草原の中小木のまがりま内み横まみまうとらま居
軒をあせはまは向ひる山より獅子あはまはらまらまらまら容軒

処み画ると異とま一是を畧さるるがんとあふの二品あり一品は
 さるるあんと下品あり亦上品のめあり此品はもづ桶ふ湯をを吾
 日本が行水のぞく徳身と申す櫛とてひのてたのめて手足指
 の先まを洗ひ負首筋ゆ此品めとまきふあふ頭の毛を其中
 をとまらうて洗ひその後めとまらう箒のぞく作り方のめ頭上
 より足の先まを是れよよくあぐ其後上品のちやんを水とて
 と右の櫛とてひのてたのめつてい又あふの毛の中より徳身と洗ひ
 流すと敷度後ちよんあふあがせとすかひはあふ是れ後洗
 するあふの香ちよんさのめさのめ吾日本よ其入のあふ粉
 の類あり品あり上品のちやんハ十三味茶種入と入最其香よろろ
 上品あり一品は下の物ゆてせんさあふんと入衣のあふ付ふと洗ふ
 とた桶の中めとて水ふあふと洗ふ人其人身衣とめ美あり

毛色もつやあり其色茶色もハ鼠白黒色まよりあるハ生とて
 是非もま一併あふ亞墨利加人の眼玉毛りる鼻の形を日本人異
 こと西洋ハ多く鼻高く眼玉青色多一英吉利阿蘭陀の人ハ
 毛色黒色あるハ少く横濱ハ渡来の内めとて見ふ西洋ハ
 其人の長高とて傳へ来ども是又今横濱ハ多く渡来の人ハ
 見ふ一様あり申す一西洋人ハ小男あり中々ありあふ吾日本
 車カ船頭人豆のち西洋とて諸國の大男男ハ上立の大男あり
 鼻も高きあり異人の長高鼻高くとてあふあふ渡来の商
 人の心あつめとて利分を得る上あり吾日本ハ生とて心
 いたるきまふ早く利を得んとするやうあり今ハ横濱商人ハ
 異人の仕とてあふあふのち左右同様の商方とて異人
 菓子の実を賣ありさるハ銅版の繪み見る処多くハ婦人の立

ところらふらふとをくみ賣るもあつ又ハ老女あぞの商入図ありその
 菓子とあつて置道具ありの巻中木の半面み画く所の臺あり三重
 み作りたるあまは五六重あまを作りたる一重一品あつて又七りハ
 真中み手うひあつて又ハ其作り方の品多く此巻は是を畧して図を
 出さむ横濱は渡来の諸人そのまゝハ異あまハ異人といふものも
 あつども又心中やうき處あまはババくもかゝる（本町ゆく小兒をいふた
 る母と見へあちとちと遠びるうち此小兒乳のまゝあまや大み泣のまを
 母ハまろーあまはまどものあく大み泣てやまむ此時亜墨利加人三四人
 つまま来りしが此躰を見へあつて見せみ行て二朱を當百みえと一本
 あつてみ折り百錢分通へくま紙あつて見せ何やう唄のやう
 なるといふく小兒とるー其當百ハ母みやとあつてあつて我屋敷み
 歸りたる

横濱 8516
 横濱 昭和 〇〇

横浜国立大学附属図書館



06582988